

アズマツメクサ *Tillaea aquatica* (ベンケイソウ科) の関東地方における新産地

著者	村中 孝司, 小幡 和男, 高野 美栄子
著者別表示	Muranaka Takashi, Obata Kazuo, Takano Mieko
雑誌名	植物地理・分類研究
巻	55
号	1
ページ	43-45
発行年	2007-10-31
URL	http://doi.org/10.24517/00053335



村中孝司¹・小幡和男²・高野美栄子³：アズマツメクサ *Tillaea aquatica* (ベンケイソウ科) の関東地方における新産地

Takashi Muranaka, Kazuo Obata and Mieko Takano: New localities of *Tillaea aquatica* in Kanto region

アズマツメクサ *Tillaea aquatica* L. は北海道から本州の低湿地に分布する一年草とされている (Ohba 2001)。近年になって、九州、四国地方からも自生していることが記録されるようになった (熊本県希少野生動植物検討委員会 1998; 徳島県版レッドデータブック掲載種選定作業委員会 2001; 鹿児島県環境生活部環境保護課 2003; 初島 2004)。関東地方においては、茨城県を除く各都県で分布していることが知られている (群馬県植物誌改訂版編集委員会 1987; 伊藤 1998; 東京都環境保全局自然保護部 1998 a; 神奈川県植物誌調査会 2001; 千葉県史料研究財団 2003; 栃木県自然環境調査研究会植物部会 2003) がその産地は限られているようである。茨城県においては生育記録および採集された標本は知られておらず、今回茨城県県南部の常総市の菅生沼畔および牛久市の牛久沼畔の 2 か所で生育を確認したのでここに報告する (Fig.1)。

菅生沼畔の自生地は 2005 年 5 月に初めて確認された。2006 年 7 月までにはおよそ 10 m² 程度の範囲に生育しているにすぎなかったが、2007 年 7 月にはおよそ 150 m² の範囲に拡大しているのが確認された。自生地および周囲はヨシ、マコモなどの高茎イネ科草本が優占し、増水時には自生地の大部分が冠水することがある。また、自生地周辺には小舟の水路として利用されており、しばしば地上部の草本を刈り取る管理が施されているため、草丈の低いやや裸地的な生育環境が維持されている (Fig. 2)。

牛久沼畔の自生地はハナショウブなどを鑑賞のために栽培している観光アヤメ園の園内であり、2006 年 5 月に初めて確認された。2007 年 5 月においては園内の湿地のおよそ 250 m² の範囲に生育しているのが確認された。この自生地は 2005 年 4 月から牛久市からの委託を受け、NPO 法人うしく里山の会が管理を行って

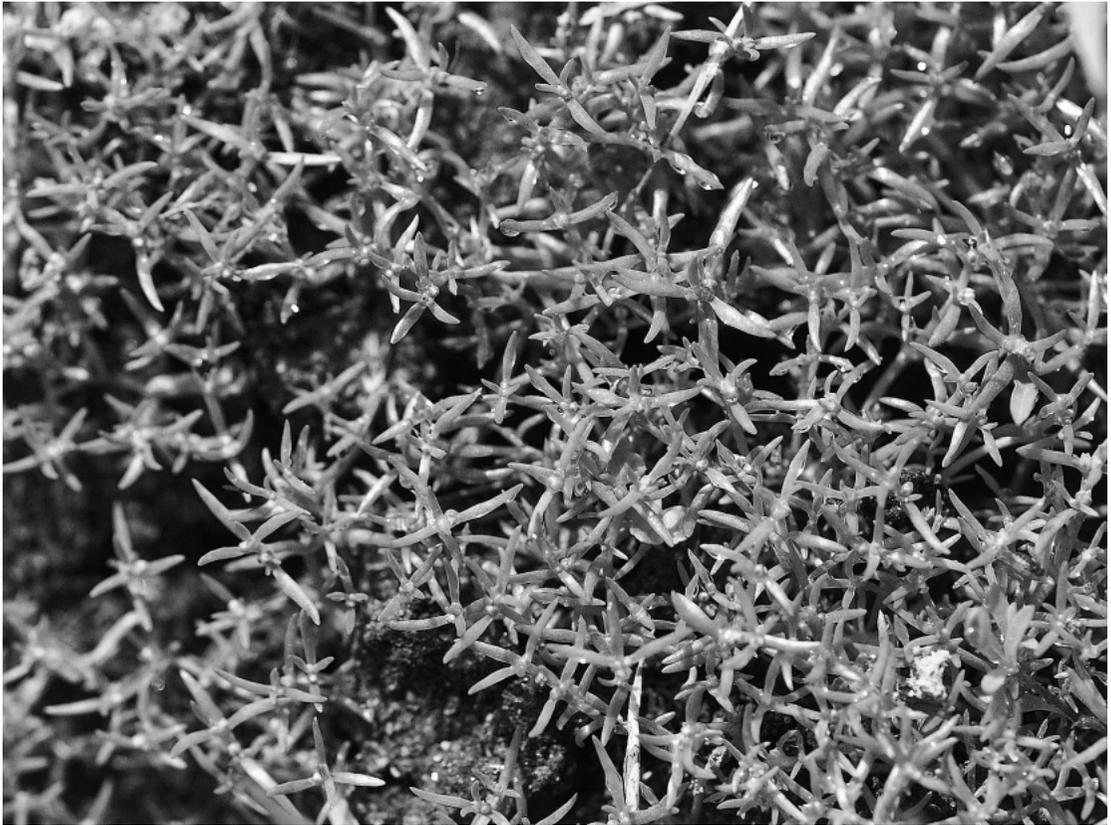


Fig. 1. *Tillaea aquatica* L. in the Ushiku-kanko-ayame garden at Lake Ushiku-numa, Ibaraki Pref. (May 28, 2007).

おり、かつては除草剤の散布を含んだ管理が施されていたが、現在では除草剤の散布を取りやめ、出現した雑草を人力による抜き取りにより除去している。除草の効果によって、路傍を除く園内のほぼ全域は草丈が低く、やや裸地的な状態となっているが、アゼナ、ムシクサ、ノミノフスマ、タネツケバナ、アキノウナギツカミなどの水田の雑草は数多く生育している。アズマツメクサも他の雑草と同様に抜き取りの対象となっているが、抜き取られた跡から次々に新たな株が出現しているのが確認された。

本種は環境省のレッドリスト（環境省自然環境局野生生物課 2007）においては準絶滅危惧に選定されている。関東地方の各都県においては、栃木県（栃木県林務部自然環境課・栃木県立博物館 2005）および群馬県（群馬県環境生活部自然環境課 2001）で絶滅危惧 I 類、神奈川県（高桑他 2006）で絶滅危惧 IA 類、埼玉県（埼玉県環境防災部みどり自然課 2005）で絶滅危惧 IB 類、東京都（東京都環境保全局自然保護部 1998 b）で A ランクとなっている。すなわち、本種は千葉県を除く関東地方の各都県において現存する自生地が極めて限られ、絶滅危険度の高いランクとして扱われており、菅生沼畔および牛久沼畔の自生地は保全上の重要性が非常に高いといえる。いずれの自生地でも半裸地的な生育環境の立地でアズマツメクサが分布している様子が確認されたことから、刈り取りや抜き取りなどによる大型草本植物の抑制が本種の生育に適した条件をもたらしている可能性が考えられる。現在施されている湿地の管理作業を定期的の実施し、生育状況をモニタリングするとともに、本種の生態学的特性を詳細に明らかにして保全計画を立案するための検討が待たれる。なお、今回報告する自生地において採集されたアズマツメクサの標本はミュージアムパーク茨城県自然博物館（標本番号：INM-2-48421, INM 2-48422）に収蔵した。



Fig. 2. Habitat condition of *Tillaea aquatica* L. on the floodplain in Sugao Marsh, Ibaraki Pref. (July 7, 2007).

本報告にあたり、ミュージアムパーク茨城県自然博物館、NPO 法人うしく里山の会、筑波大学大学院生命環境科学研究科の皆様にはたいへんお世話になった。ここに記してお礼申し上げる。

引用文献

- 千葉県史料研究財団. 2003. 千葉県の自然誌 別編4 千葉県植物誌. 1181 pp. 千葉県史料研究財団, 千葉.
- 群馬県環境生活部自然保護課. 2001. 群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 植物編. 153 pp. 群馬県環境生活部自然環境課, 前橋.
- 群馬県植物誌改訂版編集委員会. 1987. 群馬県植物誌 改訂版. 604 pp. 群馬県, 前橋.
- 鹿児島県環境生活部環境保護課. 2003. 鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物—鹿児島県レッドデータブック 植物編. 657 pp. 鹿児島県環境技術協会, 鹿児島.
- 神奈川県植物誌調査会. 2001. 神奈川県植物誌 2001. 1580 pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
- 環境庁自然保護局野生生物課. 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—8 植物I (維管束植物). 660 pp. 自然環境研究センター, 東京.
- 環境省自然環境局野生生物課. 2007. レッドリスト (植物I) 維管束植物. 28 pp. 環境省自然環境局野生生物課, 東京.
- 熊本県希少野生動植物検討委員. 1998. 熊本県の保護上重要な野生動植物—レッドデータブックくまもと—, 381 pp. 熊本県環境生活部自然保護課, 熊本.
- 初島彦彦. 2004. 九州植物目録. 鹿児島大学総合研究博物館研究報告 (1) : 1-343.
- 茨城県生活環境部環境保全課. 1997. 茨城における絶滅のおそれのある野生生物<植物編>—茨城県版レッドデータブック—. 253 pp. 茨城県生活環境部環境保全課, 水戸.
- 伊藤 洋. 1998. 1998年版 埼玉県植物誌. 833 pp. 埼玉県教育委員会, 浦和.
- Ohba, H. 2001. Crassulaceae. Iwatsuki, K., Boufford, D. E. and Ohba, H. (eds.). Flora of Japan IIB, pp. 10-13. Kodansha, Tokyo.
- 埼玉県環境部みどり自然課. 2005. 改訂・埼玉県レッドデータブック 2005 植物編. 358 pp. 埼玉県環境防災部みどり自然課, 浦和.
- 高桑正敏・勝山輝男・木場英久. 2006. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006. 442 pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
- 栃木県林務部自然環境課・栃木県立博物館. 2005. レッドデータブックとちぎ—栃木県の保護上注目すべき地形・地質・野生動植物—. 898 pp. 栃木県林務部自然環境課・栃木県立博物館, 宇都宮.
- 栃木県自然環境調査研究会植物部会. 2003. 栃木県自然環境基礎調査 とちぎの植物I. 534 pp. 栃木県林務部自然環境課, 宇都宮.
- 徳島県版レッドデータブック掲載種選定作業委員会. 2001. 徳島県の絶滅のおそれのある野生生物—徳島県版レッドデータブック 植物編. 114 pp. 徳島県県民環境部環境局循環型社会推進課自然共生室, 徳島.
- 東京都環境保全局自然保護部. 1998 a. 東京都の野生生物種目録 1998年版. 127 pp. 東京都環境局自然保護部, 東京.
- 東京都環境保全局自然保護部. 1998 b. 東京都の保護上重要な野生生物種—1998年版—. 77 pp. 東京都環境局自然保護部, 東京.
- 牛久市建設部緑化推進課. 2006. 牛久における絶滅のおそれのある野生生物<植物編>普及版. 92 pp. 牛久市建設部緑化推進課, 牛久.
- (¹〒300-1212 牛久市結東町 489-1 牛久自然観察の森; ²〒306-0622 坂東市大崎 700 ミュージアムパーク茨城県自然博物館; ³〒300-1212 牛久市結東町 489-1 牛久自然観察の森内 NPO 法人うしく里山の会
¹Ushiku Nature Sanctuary, 489-1 Kessoku-cho, Ushiku City, Ibaraki 300-1212, Japan; ²Ibaraki Nature Museum, 700 Osaki, Bando City, Ibaraki 306-0622, Japan; ³NPO Ushiku-satoyama-no-kai, 489-1 Kessoku-cho, Ushiku City, Ibaraki 300-1212, Japan)